

幸せのものがたり。プロローグとエピローグのある8章
ミュージカル

シンデレラ

“涙と笑いと感動”それが劇団東少の舞台です!!



ものがたり

むかしむかしある国のお話です。

とても心のやさしい女の子が居ました。その子がまだ小さい時、お母さんが亡くなって、新しいお母さんが来たのですが、お父さんもまもなく亡くなってしまいました。新しいお母さんには二人の娘が居ました。二人のお姉さんが来たのです。ところが、このお母さんも、お姉さんたちも、大変いじわるでなまけものでした。いつも女の子を「シンデレラ」と呼び、家中の仕事をみんなさせていました。「シンデレラ」は【灰をかぶったきたない子】という意味なのです。

さてある日のこと、お城で王子様のお妃選びの舞踏会が開かれることになりました。二人のお姉さんは、自分こそお妃になるうと大さわぎです。シンデレラだってお城の舞踏会に行きたいのですが、「灰つかぶりじゃ、笑いものになるだけせ」と、二人のお姉さんに言われ、一人で泣いていました。

お母さんと二人のお姉さんが舞踏会に出かけて行ったあと、一人で泣いていたシンデレラのほほに、そつとそよ風が通り過ぎたと思うと、そこに魔法使いのお婆さんが立っていたのです。

「泣くことはないよ、シンデレラ。さあ、お城の舞踏会に行っておいで」そう言って杖を一振りすると、台所の古いカボチャがすてきな馬車になり、ねずみが白い馬になり、ねこが馱者になったのです。

「でもシンデレラ、忘れるんじゃないよ。時計が十二時をすぎると、魔法は解けてしまうのだよ」……すてきな馬車も美しいドレスも白い馬も、もとの姿にもどってしまうのです。



さてお城では、どこかの国のお姫様といつても恥ずかしくないシンデレラに、王子様は一目惚れをしてしまいました。時間を忘れて、シンデレラが踊っているうちに、十二時の鐘が鳴り、魔法が解けないうちに逃げ出す時に、ガラスの靴の片方を落としてしまいました。今はもうガラスの靴だけがシンデレラの手掛かりとなった王子様は国中の娘に、ガラスの靴をはかせることにしました。そして、とうとうシンデレラの家にも王子様と廷臣たちがやってきました。お姉さんたちは力いっぱい足を靴に入れようとしますが、はけません。シンデレラがはくと、ぴったりです。

王子様の結婚の相手が見つかったのです。二人はいつまでもいつまでも幸せに暮らしました。



●劇団東少紹介

劇団東少は、1949年創立以来公演活動을 続けて半世紀を越えた歴史のある児童演劇の専門劇団です。公演地は全国的であり、北は北海道から南は九州沖縄までと幅広く、公演日数も年間100日を超え15万人以上の動員をしています。特に東京公演では、'80年からスタートした東京日本橋の三越劇場での夏・冬のファミリー劇場は、定期公演になり、一般公演の少ない児童演劇界でユニークな存在として現在もその効果を実らせています。又、出演者は数百名のオーディションの中から選ばれた、演技・ダンス・歌に実力のある俳優とベテラン俳優が参加し、大人も子どもも感動できる作品を制作し、公演しています。

劇団東少のレパートリーは、心の優しさをメルヘンタッチに描き、現代に通じる愛を芝居・歌・踊りで構成し、涙と笑いと感動を与えられる本格的な創作ファミリーミュージカルとして好評を博しております。